

平成28年度 青少年の健全育成を進める県民大会

平成28年7月9日(土) 横須賀市文化会館において、「社会全体で青少年をはぐくむ環境づくり」をテーマに、青少年の健全育成を進める県民大会が開催されました。

◆オープニング

大会は、県立逗子高等学校の生徒の司会で進められ、横須賀学院中学高等学校のハンドベル・クワイアによる演奏で始まりました。天使のハーモニーとも言われる清らかなハンドベルの音色が大変好評でした。



オープニング

◆基調講演

千葉大学教育学部教授の藤川大祐氏を講師に迎えて、「情報化社会を生きる青少年のために」をテーマに、講演をいただきました。

- 藤川氏は講演の中で、
 - ・ スマートフォンの急速な普及により、3つの大きな問題「長時間利用」「ネットいじめの増加」「ネットに関係する犯罪被害の増加」が顕在化している。
 - ・ 本来、インターネットは子ども達が沢山のことを学び、自分達のやりたいことをやるために有意義に使われるべきもので、うまくバランスを取りながら、問題を押さえつつ有効な利用を学んでいかなければいけないが、あまりにも急速にスマートフォンが普及したために、対策が追いついていないのが現状だと思われる。
 - ・ インターネット環境整備の組織づくりには、様々な関係者・団体が連絡・協力できる体制を作ることが重要で、社会の変化が激しい中で常に動きながら対応を進められる体制作りをしていただけるとありがたい。

と語られました。

◆パネルディスカッション

LINE(株)の浅子秀樹氏と県立逗子高等学校の藤井光葉総括教諭、横須賀市立横須賀総合高等学校、横須賀市立大津中学校の生徒をパネリストに迎え、「インター

ネットと上手に付き合おう」をテーマにして藤川氏の進行により行われたパネルディスカッションでは、企業、教員、青少年それぞれの立場からの発言がなされ、活発な議論が行われました。

- 浅子氏は、青少年のLINE利用実態調査結果から、
 - ・ 「子どもの道徳心を育む必要性」「利用開始時の親子のコミュニケーション(リスク意識付け)」「相談できる環境づくり」が大事だと考えられる。
 - ・ インターネットは避けて通ることのできないものなので、子ども達には賢く使う知恵を身につけて欲しいと考えている。
- 藤井教諭は、
 - ・ 家庭や社会と連携していくことが何よりも大切なことだと思っている。
 - ・ 社会の進展や変化に伴う現象への対応が必要だが、普遍的な部分、例えば人権の意識や命の尊さなどを軸に据えながら教育活動をしていかねばならないと思っている。
- 青少年パネリストからは、
 - ・ インターネットをつい長時間利用してしまう。そのため以前より時間に余裕が無くなったと感じる。
 - ・ 相手のことを思いやりながらインターネットと接することが大事だと思う。
- 最後に、藤川氏から、
 - ・ 従来から空気を読むということが日本文化に強く、それがいじめの中ではいじめを止めないことが空気を読むということになってしまい、長時間利用においても、相手に強く言えずにだらだら続けることがある。
空気を読むということは日本文化の特質でもあり、その弊害もインターネット時代以前から大きかったが、主張すべきところは主張する、というコミュニケーションのとり方が、インターネット時代になってますます必要になってきているのではないかと考えられる。

以上のような発言がありました。



パネルディスカッションの様子